

平成29年度 第2回恵庭市水と緑のまちづくり審議会（議事要旨）

日 時：平成29年11月21日（火）10:00～12:00
場 所：恵庭商工会議所 中会議室

出席者： 【委員】（11名）

池永 允子・内田 信一・大塚 武・岡本 浩一・尾谷 百合子・斉藤 浩二
豊田 栄・野原 聡・三浦 真吾・山口 裕美・吉田 愛子

【市】（12名）

（市長）原田 裕・（企画振興部長）浅香 正人・（企画振興部次長）大槻 雄二
（まちづくり拠点整備室長）後藤 昭悦・（まちづくり拠点整備室主幹）廣瀬 新
（まちづくり拠点整備室主査）上山 謙太郎・（建設部長）石上 日出昭
（建設部次長）高橋 光男・（管理課主幹）萩原 由紀夫・（管理課主査）小川 貴弘
（管理課主査）林 辰徳・（広報課主査）早川 剛志

【国土交通省等（かわまちづくり計画）】（7名）

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所
（計画課長）古賀 文雄・（計画係長）金谷 将志・（事業専門官）鳥谷部 寿人
（計画課）西田 侑希
一般財団法人 石狩川振興財団
（企画部長）佐々木 徹・（振興部長）田中 史雄
株式会社 北海道技術コンサルタント
（流域計画部次長）坪谷 太郎

【事務局】（3名）

（まちづくり推進課長）岡田 貴裕・（まちづくり推進課主査）遠藤 美樹
（まちづくり推進課主任）安藤 友晶

【傍聴者】（3名）

欠席者： 【委員】（2名）

内倉 真裕美・岡田 宏一

議事1.（仮）恵庭かわまちづくり計画（素案）について

（まちづくり拠点整備室より説明）

（A委員）

計画書（案）〈川は憩いと遊びと非日常的空間の場〉に、花の拠点（公園）と新住宅団地と川の環境を一体的にとあるが、具体的にはどういう事が一体性につながる中身として考えられているのか。

単に一つの範囲で括る事ができるから一体的に整備しますという都合でやっているという気がする。

住宅地開発は民間に任せるとの事だが、景観の部分でいえば、住宅地の開発において、地区計画等で制限をかける等の方向まで考えられているのか。

(拠点整備室長)

おっしゃる通り、一連の計画ということで、一体的と表現したが、中身にも関連がある。

資料では割愛しているが、住宅地の計画では、環境・景観・3世代コミュニティを一つのコンセプトとし、CO2の削減を目標とすると共に、一宅地100坪程度の敷地を想定している。

また、景観については地区計画を設ける事を予定しており、販売協定について民間事業者と協議を行っているところである。

3世代コミュニティについては、緑地で親子が遊べるのと同時に、比較的大きな宅地で3世代が同居できないかなど、単に緑地に隣接しているだけではなく一体的な計画となるよう考えている。

(副会長)

恵庭市のまちづくりの柱である川・緑・花の拠点ができる、更に充実・拡大していく事は大変良い。

近年の異常気象によるゲリラ豪雨等、川辺の施設・住宅地は心配な面もあるが、治水対策等はどうなっているのか。

(千歳河川事務所)

河川整備計画に基づいて安全な川づくりとなるよう整備を進めており、漁川についても順次河道掘削や堤防の整備を行っている。

(副会長)

川がすぐそばにあるのに川の怖さを知らずにいると、一旦何かがあると、想定外の事が起こったりする事がある。

災害が起きないように、予防する事と同時に、川がある意味で生命の危険や暮らしを壊す存在である事を感じられる場所であってほしい。

ネガティブな部分も計画の中で伝えていく事が必要だと思う。

情報機能の整備も行うようだが、恵庭ならではの川との付き合い方をこの地区で見せて頂きたいと思う。

(B委員)

計画書(案)かわゾーン整備、親水施設の整備にあるサケ稚魚放流の稚魚はどこから持って来るのか。

(拠点整備室)

「さけの会」で育てている稚魚を小学生が放流している。

(B委員)

生物多様性の部分でDNAの問題などがあると思うので、もし別の河川の稚魚だと、稚魚放流もある意味国内の外来種となるため、元々恵庭の川で育った千歳川水系の稚魚を持ってくるとか、そこまで盛り込むと恵庭のアピールになると思う。

安易な稚魚放流はどうかと思う。

また、良好なサケの産卵環境の整備について、漁川は川底の土砂や礫の供給が止まっていると感じる、このままではただ流れるだけで、堆積する土砂がなくなり、結果、産卵場所がなくなってしまう。

観察デッキ付近にはヤナギがたくさんになってしまい、治水面も景観の面からもどうかと思う。

川の方で自然に岸辺を削り取ってそれが川底へ堆積していくような工夫が、観察デッキを作るのなら必要と感じた。

(千歳河川事務所)

ご指摘にあったヤナギによる護岸の樹林化は起こっているので、伐採し河道断面を確保しつつ再樹林化しないよう措置して行きたい。

サケの産卵場所については専門家の話を伺いながら検討して行きたいと思うので、何かあればご協力頂きたい。

(C委員)

元々、道の駅は「道と川の駅」として始まったと思うが、「恵庭かわまちづくり」はそれがシフトしたものなのか、道の駅の計画の一部なのか。

(拠点整備室長)

道の駅の名前を変えるものではない、道の駅の中で行っている河川環境に係る情報発信をよりよくしていこうというもので、道と川の駅の機能拡大、花の拠点と住宅団地、緑地整備とかわゾーン整備を一体として考えていくものである。

これまでは一般的に川側整備のみで、川の外側、周辺の整備は余り考えられていないケースが多かったが、隣接する区域も一度に整備していき、憩いの空間を与え、住民、人を集める仕組みを作っていこうというものである。

(D委員)

相当広大な敷地で整備をする計画だが、余程魅力的な施設がないと道の駅側に車を停めても保健センター側までは歩いていけないのではないだろうか、一体ではなく別の計画のように感じてしまう。

この周辺がどう変わっていくのかが市民の関心が一番強いところだと思う。

これだけ河川が蛇行する所は氾濫の危険性はないのか、専門の方に伺いたい。

(千歳河川事務所)

他の河川にもこういった場所はたくさんあり、特に危険な所ではない。

(E委員)

漁川は天井川ではなく掘り込みなので、危険性は低いと思う。

今まで各地で氾濫が起こっている多くの川は天井川に堤防があって、その堤防を水が超えた時と聞いている。

(会長)

漁川は上流にダムがあり、大雨の前に放流を行い水量調節しているため、水害になる危険性は低いと考えられる。

(F委員)

新しくできる駐車場について、木を植える予定はあるか。

(拠点整備室長)

住宅地側との緩衝緑地帯は設けると思うが、背の高い木を植える予定はない。

(F委員)

できれば停めている車にも木陰があると良い。

天気のいい日は車が日差しを浴びて暑くなる、新しく作るのなら木を植えて恵庭らしい駐車場ができればいいと思う。

(E委員)

景観の良い施設にしてほしい。

松園通には50年以上経った桜の木があり、駐車場にも木があれば、照り返しが住宅街側にも行かない、要所には植えて欲しい。

道の駅に花のサポーターとして良く行くが、駐車場内に木が少ない。

木が少しでもあれば木陰できるし、ただ広い駐車場だけでは殺伐としていると感じる。

(F委員)

道の駅は西日がきつくて、お菓子屋さんが出店できないと嘆いており、広い場所の木陰は大切だなと思う。

(会長)

駐車場そのものが熱を持たない、照り返しが起こらないように配慮があるとありがたいが、すぐに結論が出る問題ではなく難しいと思う。

今後整備が進んでいく中で織り込んで対応を頂きたい。

(G委員)

ウォーターガーデンの水路はこのままの形なのか。

(拠点整備室長)

ウォーターガーデンそのものは変えないと聞いている、ただ、下流については少し変えて流れを良くする事を検討しているとの事。

(G委員)

花の拠点の駐車場の導線は具体的に決まっているか。

また、オープンカフェと書かれているがどこに設置するのか。

(拠点整備室長)

現在は駐車場台数が200台程度と少ないため、新たに駐車場を設けたり、現在太陽光パネルがある箇所を駐車場にする事や、ガーデンセンター（現保健センター）前の駐車場の利用をはかるが、公園内を車が横断する事になるので駐車場同士をつなげる予定はない。

オープンカフェはイベントでできないかという事で記載している。

(G委員)

現状でもイベント等で機材を搬入する際に屋外広場への搬入路がないため、人の導線だけではなく車の搬入経路も確保して頂ければと思う。

(A委員)

既にやっているとは思いますが、今後計画を煮詰めていく時には各所管で連携して整備を進めて頂きたい。

議事2. 恵庭市公共施設花づくり整備運営実施状況及び次年度計画（素案）について

(事務局より説明)

(A委員)

指定管理を行っている民間事業者が花植えの取組を行っているということだが、取組を行っている中で、民間事業者は、自分達が係る事で街が変わっていくというプラス思考でやっているのか、市が方針を出したのでやっている状況なのか、感触はどうか。

また、花植えを通じた人と人の繋がりもあると思うが、実感はあるか。

(事務局)

民間事業者の方々には、マンパワーの問題もあり大変な中、前向きに協力して頂いている。

また、事業者から花苗の寄付を頂いた施設もあり、大変感謝している。

花植えを通じた人と人との繋がりについても、各施設の花植えを通じ強く感じており、次年度以降も推

進していきたい。

例えば、緑と語らいの広場複合施設では民間施設と公共施設の運営協議会ができる予定だが、その中の活動の1つとして、一緒に花植を行うイベントの実施等も考えられると思う。

(副会長)

昨年度の審議会の中で、計画策定後のフォローが大切と話したが、それができており良いと思う。

何年も積み重なって更に価値が出てくるものであり、計画になかった施設が増えている事や寄付があった事は大きい。

3年で終わらずに継続して行って頂きたい。

(事務局)

推進にあたり、庁内にワーキング会議を組織している。

その中では実際に花苗をどうやって買うのか、植えていくのか等、事業の進め方に関する担当者会議を行なうなどの意見も出ている。

担当者が異動で変わっている事もあるので、全体での内部説明会を行う。

これらについても検討し、円滑な事業推進に努めてまいりたい。

(F委員)

皆前向きに取り組んでいるかという話についてだが、小中学校ではPTA事業の削減を行う際に一番先に挙がるのが花壇との事。

今年も実施はしたが、毎回同じ参加者のみで、ほぼ先生がメインでやっているのが各学校の現状だと聞いている。

街の中に花が増えている感覚はあるが、一步工場地帯等に入るとやっている企業とやっていない企業がはっきりと分かれている現状がある。

この計画は公共施設のものだが、どういう段階になったら終わりになるのか、ゴールがあるのか、公共施設に限らず、企業体にも何か利益や恩恵があればと思う。

議事3. 街路樹の維持管理について（モデル路線での剪定の試行等）

(建設部より説明)

(H委員)

モデル地区・路線について、街路樹のあり方の下地となる、各路線の街路樹の現状分析はできているのか。

現状把握ができており、街路樹の個性を出し存在価値を高める設定ができているのかをお聞きしたい。

同じ樹種でも地域特性や道路ごとに違う樹形で良く、樹種で均一にしまうと、空間特性が活かせない。

駅前通りや商店街、学校のある文教地区や郊外など、その路線ごとにそれぞれの特徴があるようにして頂きたい。

その為には、現状の街路樹の分析がどんな形で整理されているのかが大切である。

(建設部)

現状では、恵み野地区のイチョウについて台帳作りに取り組んでおり、現状把握を行っているところ。

モデル路線の2番目は公共施設が多い所で、沿線の声・苦情が少ない所から理想の樹形を作り、地域の意見を聞いてこれからの街路樹のあり方を決めていきたい。

この路線でどうするかが決まった後に、樹形の乱れている地域へ方針を反映させ、街路樹の樹形管理に取り組む予定。

モデル路線は平成 29 年から取り組み、平成 30～32 年度で検証し、地域との意見交換を経て 33 年度で随時区域を広げる等を行いたい。

(H委員)

強剪定をせず、適期に剪定をするなど、街路樹の効果を発揮する管理樹形を作るのは全ての街路樹に共通しているが、より個性的な街路樹の存在価値を高めるという事になれば、それぞれの路線ごとにどう設定するか考えながら、街路樹の維持管理に取り組んで頂きたい。

市全体として大きな街路樹の効果が生まれてくると思われる。

(A委員)

イチョウ以外の街路樹、プラタナス等、他の樹種はどのように考えられているのかお聞きしたい

プラタナスは毎年剪定しているとの事なので、そこで切り方・街路のイメージを変えてみる等の提案はできないのか。

また、モデル路線のイチョウについて、試行して問題がなければ方針を決める、広げていくとの事だが、どのような問題が起こる可能性があるのかを想定しているのか、または問題がないと思うが、発生した場合の事を考えているのか。

(建設部)

その他の樹種についても随時取り組める部分を実施して行きたいが、まずは恵み野地区のイチョウから始めて行きたいと考えている。

平成 30 年度以降、プラタナスの剪定方法や時期は少し時間をかけて検討、提案していきたい。

慎重な表現になっているが、問題は起こらないと考えており、これで進めていきたい。

(A委員)

プラタナスについて、来年度以降に切り方を変える検討等をする事は、市民にいつ方針を説明していく予定なのか、早いほうが良いと思う。

(建設部)

イチョウのモデルケースで、来年度以降ある程度葉張りができてきた後で、恵み野地区に話をして行きたい、同時進行は人員等の要因で困難だが、プラタナスについても町内会・地域に順を追って説明、実施していきたい。

(A委員)

イチョウについて、今までの状態で市民はどう感じているのかは把握しているか。

それが分からないと良くしても以前と比較してどうなのかが分からない、他の路線で行うにしても、どの程度良くなるか分からないと地域の協力を得られないのではないかと。

試す前と後の意識・評価の差を比較しなければ効果が分からないが、現時点では事前の意見集約は行っていないのか。

(建設部)

現時点で事前の意見集約は行っていないが、モデル路線と連続している部分で、今までと同じく強めの剪定を行う予定であり、その違いを見てもらい意見集約を行いたいと考えている。

(副会長)

前回の審議会で、方針は時間をかけて作っていかなくてはと話をしたが、市が抱えている喫緊の課題を解決するために、まずは可能な所から着手して市民の声・反応を聞きながら徐々に指針をまとめあげて行くという意図があると思われるし、理解できる所である。

指針では、どう対応するかだけではなく、総合計画・緑の基本計画・都市計画等を基に、こういう街に

したい、街路にしたい、緑の空間を作ると言う意思をしっかりと示して欲しい。

委員の方から現状把握が重要という意見が出たが、その通りであり、指針の前段で示すべきだと思う。

街によって状況が違うと思うが、他県の自治体で、自分達の街では街路樹にこんな問題があつて、これをクリアするために指針を作っている、答えをここに出しますという指針になっており、あまり関心のない人にも現状の課題を見ただけで、分かるように作られている。

また、街路樹の地域特性や街路特性を個々にまとめるのが大変であれば、指針では全体としてまとめるにとどめる等、構成を良く考えて作ると、分かりやすいものとなると思う。

色々な制約もあり、時間がかかると思うが、前に進めていくプログラムを持ち、将来に渡って自分達は緑をこうして行くと共有できる指針にして頂きたい。

(H委員)

樹木の剪定については、生き物なので成長し、変化する。植物の生理的なサイクルを考慮した適切な時期に剪定をと以前よりお伝えしているが、今回より実施されているとの事で、細かな問題は多々あるが、少しずつ前進しており良い事だと思っている。

(E委員)

モデル路線は生活圏なのでよく通る。

恵み野駅前にはイチョウが強剪定されて賛否があるが、車からは道路や歩道が見えやすくなっており、脇道からの車や子供達がよく見えて危険も軽減されていて良いと思う。

(A委員)

行政内部では相当色々な連携や検討をされていると思うが、確認させて頂く意味も込めて気付いた所をお伺いさせて頂いた。

今後も各部門で連携しながら良いものになるよう取り組んで頂きたい。

(副会長)

恵庭市は道内の市町村の中でも色々な部分で先頭を切っている自治体なのでもっと先へ進んで頂きたいと思っているし、それに応えて進む事ができる街だと思っている。

期待しています。

・事務局より連絡事項

次回開催：2月

内容：水と緑のまちづくり表彰被表彰者について（諮問）

公共施設花づくり基本指針整備運営実施計画取りまとめ結果の報告 等を予定

(会議終了)